

私立大学研究ブランディング事業

平成28年度の進捗状況

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園		
大学名	高野山大学				
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的的研究				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	200人
参画組織	高野山大学(文学部大学院・高野山大学図書館・密教文化研究所)				
事業概要	高野山大学は創立130周年の伝統を有する密教の最高学府である。図書館、密教文化研究所では、多くの密教に関する貴重書が保管されており、世界に数少ない密教の教育・研究機関と言える。本学の過去の歴史的資料や、高野山文化圏に関わる多くの資料をアーカイブ化し、連続と続く1200年の密教の遺産を次世代へ繋いでいくことは、大きな価値を有すると考えられる。				
①事業目的	本研究の目的は、①真言密教の研究への新たな研究ツールの提供、②高野山に関する密教学研究の深化・促進(研究者のみならず、内外の一般ユーザー、地域住民、内外の観光客)③国際観光都市としての地域の再発見である。①②③を通じて、世界遺産である高野山全体のブランド力を高めることを目指している。				
②平成28年度の実施目標及び実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ●全学研究高度化推進委員会、高野山アーカイブ研究会議の設立 ●全学高度化推進委員会 アーカイブシステムの承認 ●高野山大学・町役場との友好協定 ●博学連携におけるブランディング事業を含む包括協定締結 ●外部有識者との継続的な評価契約 ●アーカイブシステムの選定 ●研究設備整備費等補助金におけるブックスキャナーの選定と申請 ●ブランディング事業プロジェクトの平成28年度予算案の承認 ●各種ソリューション及び、機材等の導入契約 ●高野山アーカイブ研究室の構築(工事) ●高野山アーカイブ研究室研究体制の確立 ●アーカイブテスト評価版学内、外部有識者向け試験公開【フェーズ1】 ●学内評価委員会による評価 ●外部有識者および、町役場、霊宝館の評価 				
③平成28年度の事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ●全学研究高度化推進委員会、高野山アーカイブ研究会議の設立 ●総合学術機構 密教文化研究所「アーカイブ研究室」の工事(電気・電話・LAN工事)機材設置、ブックスキャナー設置・(アーカイブデータ作業稼働状態完了)専用OCR稼働。 ●「高野山アーカイブ」学内評価・外部有識者・博学連携・町役場協定 テスト評価版のリリース完了3月25日 ●学内研究体制の整備・3月から稼働 ●全学研究高度化推進委員会 H28年度報告及びPDCAサイクル強化のため、組織変更・規約の変更・委員会構成員の再編。【管轄:総合学術機構 密教文化研究所 アーカイブ研究室】 				
④_1 平成28年度 【自己点検・評価】	<p>1. 研究目的に対する評価</p> <p>①近年の仏教学研究は、デジタルデータベースを活用した手法が主流であり、密教学研究でも当該ツールの需要は高まっている。本研究はこうした需要に応え得るものと評価できる。</p> <p>②電子化されたテキスト・写本のアーカイブをマルチデバイス対応としてリリースすることで、利用者の要求に応じた解釈、個々の文脈を生成に基づく創造性の開放は、密教の研究を深化させるものとして高く評価できる。</p> <p>③現代の地理情報表示と古地図等の史料情報をGPS連動させるソフトの開発を目指しており、文化財を観光資源として活用することで、地域の人々および国内外の観光客等へ多大な貢献ができるものと評価できる。</p> <p>2. 研究体制に対する評価</p> <p>本事業では、PDCAサイクルに基づいた体制が採られている。内訳は以下の通り。</p> <p>(P)計画立案:全学研究高度化推進委員会、(D)計画遂行:高野山アーカイブ研究室、(C)管理運営確認:大学評価委員会・外部有識者・高野町役場・高野山霊宝館など、(A)改善遂行:高野山アーカイブ研究室</p> <p>次項記載内容の如く、平成28年度の全学研究高度化推進委員会では、当初の運営計画において定められた機能を、当該の委員会が果たしているものと評価できる。</p> <p>3. 事業の進捗状況についての評価</p> <p>①全学研究高度化推進委員会の設置、②全体計画の提案・実施に関する制作進行体制の準備、③規程の整備、④高野町・高野山霊宝館・外部有識者との協定締結、⑤専用サイト設置、⑥大学内部評価が予定通り実行され、⑦高野山アーカイブ研究室の体制の確立、⑧関係分野の学術学会誌を通じた情報発信、⑨大学の定期発行媒体による報告、⑩高野町や高野山霊宝館が発行する広報誌等を通じた報告が遅延気味である。</p> <p>平成28年度の収支決算報告によれば、補助金の管理運営は適正処理されている。</p> <p>4. 今後の課題</p> <p>高野山アーカイブ研究室の業務が特定の担当者集中しないような体制を確立することが望まれる。また、情報発信に関する事業への取り組みに遅れが目立っている。</p>				

④_2.1 平成28年度【外部評価】の結果
1. プロジェクトへの期待度

1. プロジェクトへの期待度
 ①『定本弘法大師全集』のデジタル化には大きな期待を寄せる。さらにもっと多数の文献を収集し、多方向からの検索・検証が可能な状態にすることを希望する。【外部有識者A】
 ②高野山大学は、世界でも注目に値する古典的日本文化の宝庫である。このプロジェクトは、後世に価値のある文化的資源を継承するものであり、近代以前の日本史・文化を学ぶ世界中の学生にとって貴重な財産となる。そしてアーカイブが地域への関心を訴求し、観光客にとっても有用であると確信する。また、世界中の学者(日本文学・歴史・芸術)がこのアーカイブを研究のためのすばらしい文化的資源と見なすことを確信しています。【外部有識者B】
 ③地域資産の紹介や発信の意味で重要な意味をもち、世界遺産高野山のアピールによる観光客誘致や、地域住民による高野山の再発見に繋がると思われる。【高野町役場】
 ④高野山の歴史資料を整理することは必要不可欠であるが、ほとんど行われていないのが現状である。その意味でこのプロジェクトは非常に重要な意味を持つ。【高野山霊宝館】

④_2.2 平成28年度【外部評価】の結果
事業の成果の測定方法

2. 測定方法
 ①プロジェクトへの評価を測定する方法として、以下の項目が考えられる。
 (1)密教・仏教の研究者、役場職員や博物館学芸員等への意見聴取、(2)アーカイブへのアクセス数、(3)地域貢献型としてGoogle mapと古地図のGPS連動アプリが観光客への利用促進と観光客の増加、(4)地域活性化や観光客の利用促進、及び地域住民の意見聴取など

④_2.3-4 平成28年度【外部評価】の結果
助言・期待等

3.助言
 ①各種イベント・学会との連携ができればより良くなるのではないかと。【外部有識者A】
 ②このアーカイブを霊宝館・観光案内所などで利用することは観光業に役立つ。また、外国の大学・図書館に宣伝を行い、世界中にユーザーを生むことが重要である。【外部有識者B】
 ③高野山大学と町役場の友好協力協定には、文化・教育・学術の分野における協力が謳われている。現在、高野町役場では平成29年度から「高野町歴史的風致維持向上計画」の策定が進められている。「高野山アーカイブ」プロジェクトが歴史的な建造物の復元や歴史的風致の修景における「環境向上」の一翼を担うこと協力関係を希望する。【高野町役場】
 ④大学との「博学連携」の観点から、古文書・文化財の方面で連携したい。【高野山霊宝館】

4.期待等
 ①デジタル化による資料の公開が、多様な分野に光を当てるものとなる。分野ごとにメンバーを構成し、各分野の関連性により全体のプロジェクトを動かしてはどうか。【外部有識者A】
 ②多くの観光客から、高野山旅行は最高の時間であったと聞く。このプロジェクトは、高野山をより多くの人々に伝え、興味を持たせることであろう。【外部有識者B】
 ③人口減少対策や歴史的風致維持への協力を期待する。【高野町役場】
 ④日本史における高野山の重要性は、各時代の権勢との関係から確認できる。その関係の中で、高野山に膨大な資料・宝物(文章に限らず、仏像、仏画、工芸品)が蓄積されていった。しかし、その整理はほぼなされておらず、「博学連携」において始まったところである。その意味において「高野山アーカイブ」の構想を思う時、重要な事業であると確信を持ってこの事業に参画するものである。【高野山霊宝館】

